【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年1月12日(2006.1.12)

【公表番号】特表2005-526692(P2005-526692A)
【公表日】平成17年9月8日(2005.9.8)
【年通号数】公開・登録公報2005-035
【出願番号】特願2003-520755(P2003-520755)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　39/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/385　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/48　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　39/00　　Ｈ
Ａ６１Ｋ　39/385
Ａ６１Ｋ　47/48

【手続補正書】
【提出日】平成17年8月5日(2005.8.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】手続補正書
【補正対象項目名】手続補正１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
同じかまたは異なる、複数の炭水化物ハプテン部分、およびリジン含有免疫原タンパク質キャリヤ部分の複数のモノマー単位からなり、前記ハプテン部分が直接または間接的に、キャリヤ部分のモノマー単位のリジンに結合する、非天然発生免疫原共役体。
【請求項２】
前記キャリヤ部分が鍵穴リンペットヘモシアニンである請求項１記載の共役体。
【請求項３】
８００ｋD以上、２５００kD以下の見かけの分子量をもつ請求項１または２記載の共役体。
【請求項４】
ＮＡＮＡ含量が少なくとも５％である請求項１－３のいずれか１項記載の共役体。
【請求項５】
リンカーが単一ハプテン部分を前記モノマー単位の単一アタッチメント部位に結合する請求項１－４のいずれか１項記載の共役体。
【請求項６】
リンカーが複数のハプテン部分を前記モノマー単位の単一アタッチメント部位に結合する請求項１－４のいずれか１項記載の共役体。
【請求項７】
共役体のキャリヤ部分がＫＬＨのモノマー単位のダイマー、トリマー、テトラマーまたはペンタマーである請求項１－６のいずれか１項記載の共役体。

【請求項８】
共役体のキャリヤ部分がＫＬＨのモノマー単位のダイマーまたはテトラマーである請求項７記載の共役体。
【請求項９】
共役体分子からなる組成物であって、前記共役体分子が前記炭水化物ハプテン部分からなる前記組成物において全共役体分子の少なくとも７５重量％である請求項１－８のいずれか１項記載の組成物。
【請求項１０】
１またはそれ以上の試薬を反応させる共役工程からなる請求項１－８のいずれか１項記載の共役体を調製する方法であって、前記共役体を得るように、各試薬は前記炭水化物ハプテン部分の少なくとも１からなり、前記モノマー単位、または前記単位の複数からなる予め凝集したキャリヤ部分を有する方法。
【請求項１１】
前記試薬が前記炭水化物ハプテンのアルデヒド誘導体である請求項１０記載の方法。
【請求項１２】
前記アルデヒド誘導体がオゾナイドを得るためにクロチル誘導体をオゾン化し、アルデヒド誘導体を形成するようにオゾン化物を還元する請求項１１記載の方法。
【請求項１３】
アセトアルデヒドをハプテンアルデヒドの製造の副産物として得る請求項１２記載の方法。
【請求項１４】
共役工程において、反応温度が３９℃ないし４５℃であり、反応時間が１７時間ないし２５時間である請求項１０－１３のいずれか１項記載の方法。
【請求項１５】
ハプテン－アルデヒド対キャリヤモノマーの重量比が約２．２５：１である請求項１０－１４のいずれか１項記載の方法。
【請求項１６】
前記共役工程がシッフ塩基中間体の製造からなり、中間体は還元剤で還元する請求項１０－１５のいずれか１項記載の方法。
【請求項１７】
対象に炭水化物ハプテン－特異的免疫応答を誘発させる方法が、請求項１ないし８のいずれか１項記載の共役体または請求項９記載の組成物の免疫学的に有効量を対象に投与することからなる方法。
【請求項１８】
病気に対して対象を保護するための組成物の製造において請求項１－８のいずれか１項記載の共役体または請求項９記載の組成物を使用する方法。
【請求項１９】
病気が癌である請求項１８記載の方法。